

平成29年 12月15日
 公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構

先端シードフォーラム

「バイオマス利用研究の大海を未来に向けて進む舟～化学品・エネルギーなどのバイオマス再生利用とその効用～」の開催について（ご案内）

関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）では、京都・奈良・大阪にまたがる、京阪奈丘陵に拠点を設け、文化・学術の振興などを通じてイノベーションを促進し、“新たな産業と都市の発展”につなげる取り組みを進めています。この一環として、社会の新たな方向性などを考える情報についても、積極的に発信しております。

今回は、現代社会のあらゆる分野を支え、利便性の高い生活環境を形作っている化学製品やエネルギーの多くが有限な石油に由来しており、持続的発展する未来を見据え、化学原料やエネルギーの確保を考えることは、現代人にとり不可欠な課題ということに注目しました。

この対策のひとつとして、現生生物資源（バイオマス）を由来として、化学原料やエネルギーづくりの研究・開発が、様々な課題に直面しつつ進められています。今回はこの中から、特殊な“イオン液体”を用いて森林資源を化学原料に活用する研究に取り組まれている京都府立大学大学院の宮藤教授と、微生物の優れた物質変換機能を用いることによる化学品やエネルギー源の研究に取り組まれている地球環境産業技術研究機構の乾主席研究員から、その研究の一端を紹介していただくとともに、社会への実装に向けて取り組まれている団体の有識者をパネリストにお迎えし、今後のバイオマス利用に向けた課題と方向性について議論を行います。参加者の皆さまにとり、様々な示唆を得る機会となることを期待しています。

<フォーラムの概要>

【日 時】 平成30年2月1日（木）13：30～17：00
 （13：00開場・受付開始）

【場 所】 大阪科学技術センター 4階 401号会議室
 （大阪市西区靱本町1-8-4）

【参加費】 無料

【募 集】 定員100名 1月25日（木）お申込み締切り
 （お申込み先着順とさせていただきます。）

《フォーラムの詳細な内容とお申込みはこちらから》

<https://www.kri.or.jp/contact/sentanseedsforum0201.html>

【開 催】 主催：（公財）関西文化学術研究都市推進機構
 共催：（公社）関西経済連合会
 後援：（公大）京都府立大学、（公財）地球環境産業技術研究機構、
 （一財）大阪科学技術センター

【主な内容】 別紙資料をご参照ください。

QRコード



<本件に関するお問合せ先>

公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構 <https://www.kri.or.jp/>

新産業創出会員事業室（担当：樹下）

TEL：0774-98-2277

E-mail：t-kinoshita@kri.or.jp

バイオマス利用研究の大海を 未来に向けて進む舟

参加費無料

～化学品・エネルギーなどのバイオマス再生利用とその効用～

平成30年2月1日(木) 13:30～17:00
(13:00開場)

開催場所:大阪科学技術センター4階 401号会議室
(大阪市西区靱本町1-8-4)

講演1:13:35～14:25

「木材利用の未来を切り拓くイオン液体を用いたバイオリファイナリー技術」

講師:宮藤 久士 氏(京都府立大学 大学院生命環境科学研究科
生命環境学部 森林科学科 森林資源循環学研究室
産学連携リエゾンオフィス副所長 教授・博士)

講演2:14:30～15:20

「炭素循環社会の実現を目指したバイオ燃料・グリーン化学製品生産」

講師:乾 将行 氏(地球環境産業技術研究機構 バイオ研究グループ グループリーダー
主席研究員・博士 奈良先端科学技術大学院大学客員教授)

プレゼンテーション:15:30～16:10

パネリスト:山田 竜彦 氏(森林研究・整備機構 森林総合研究所 新素材研究拠点長
研究コンソーシアム「SIPリグニン」研究代表)

「未開の国産資源「リグニン」で創る新産業」

パネリスト:堀 哲也 氏(日本乳化剤株式会社 企画開発部 担当部長)

「最近のイオン液体開発動向と市場性」

パネルディスカッション:16:10～16:55

テーマ

「バイオマス利用の現状と課題、そして進む方向」

<パネリスト>

宮藤 久士 氏※(京都府立大学大学院 教授・博士)

乾 将行 氏(地球環境産業技術研究機構 主席研究員・博士)

山田 竜彦 氏(研究コンソーシアム「SIPリグニン」研究代表)

堀 哲也 氏(日本乳化剤株式会社 企画開発部 担当部長)

※パネリスト兼コーディネーター

☆ご参加自由[要申込]

会費制交流会

17:30～19:00

地下1階 B101会議室

(会費2,000円)

主催:(公財)関西文化学術研究都市推進機構 共催:(公社)関西経済連合会

後援:(公大)京都府立大学、(公財)地球環境産業技術研究機構、

(一財)大阪科学技術センター

お問合せ:先端シーズ・フォーラム事務局 ☎:0774-98-2277 ✉:forumannai@kri.or.jp

ご参加申し込み(1/25 木曜日締切)

現代社会のあらゆる分野を支え、利便性の高い生活環境を形作っている化学製品やエネルギー。その多くは石油に由来しています。しかし、石油資源は有限であり、持続的発展する未来を見据え、化学原料やエネルギーの確保を考えることは、現代人にとり不可欠な課題です。

この対策の一つとして、現生生物資源（バイオマス）を由来として、化学原料やエネルギーづくりにつなげる研究・開発が、様々な課題に直面しながら進められています。

今回のフォーラムでは、特殊な“イオン液体”を用いて森林資源を化学原料に活用する研究に取り組まれている京都府立大学大学院の宮藤教授と、微生物の優れた物質変換機能を用いることによる化学品やエネルギー源の研究に取り組まれている地球環境産業技術研究機構の乾主席研究員から、その研究の一端を紹介していただくとともに、社会への実装に向けて取り組まれているご担当者をパネリストにお迎えし、今後のバイオマス利用に向けた課題と方向性についての議論を通じて、参加者の皆さまとともに考えを深めていただく機会とします。多数のお申し込みをお待ちしております。

(※フォーラム終了後、会費制の交流会を開催します。是非ご参加下さい。[要申込])

- ① 参加費 : 無料
- ② 申し込み: ホームページ、または本票にお名前等ご記入のうえFAXでお申し込み下さい。
<https://www.kri.or.jp/contact/sentanseedsforum0201.html>
- ③ 「申込み受付」の電子メールを自動送信しますので、印刷のうえ、当日にご持参ください。(定員100名 先着順)
- ④ お問合せ: 関西文化学術研究都市推進機構 新産業創出会員事業室(担当: 樹下)
TEL: 0774-98-2277 E-mail: forumannai@kri.or.jp
~ご案内が重複した場合はご容赦ください~

QRコード



先端シーズフォーラム (H30.2.1)

参加申し込み FAX: 0774-98-2202

御所属組織名: _____

御部署/役職: _____

お名前: _____

お電話(任意): _____

交流会[会費2千円](○印): 参加・不参加

E-mail*: _____

(★電子メールアドレスは必ずご記入ください。)



【会場アクセス】

大阪科学技術センター
大阪市西区靱本町1-8-4
TEL: 06-644-5324 (貸会場係)

<電車でお越しの場合 主な駅>

- * 大阪市営地下鉄
四ツ橋線「肥後橋駅」7番出口から徒歩5分
中央線「本町駅」2番出口から徒歩5分
御堂筋線「本町駅」2番出口から徒歩8分

<乗用車でお越しの場合>

駐車場はご用意しておりません。
会場付近の有料駐車場に駐車してください。

※詳しい会場へのアクセスは、
ホームページをご参照ください。
<http://www.ostec.or.jp/access.html>



発表内容の概要



宮藤 久士 氏((公大)京都府立大学 大学院生命環境科学研究科
生命環境学部 森林科学科 森林資源循環学研究室
産学連携リエゾンオフィス副所長 教授・博士)

タイトル：「木材利用の未来を切り拓くイオン液体を用いたバイオリファイナリー技術」

【概要】

木材を柱や床などの建築材料として利用するだけでなく、その化学成分を利用するバイオリファイナリー技術の開発は、木材に新たな価値を創造し、林業や木材産業の活性化につながるとして、大きな期待が寄せられております。本講演では、木材の利用を促進し、木材利用の新たな未来を切り拓く可能性を有するイオン液体と呼ばれる特殊な反応媒体を用いたバイオリファイナリー技術について、これまで行ってきた研究開発について紹介します。

<備考>

バイオリファイナリー：再生可能資源であるバイオマスを原料にバイオ燃料や樹脂などを製造するプラントや技術。



乾 将行 氏((公財)地球環境産業技術研究機構
バイオ研究グループ グループリーダー 主席研究員・博士
奈良先端科学技術大学院大学客員教授)

タイトル：「炭素循環社会の実現を目指したバイオ燃料・グリーン化学品生産」

【概要】

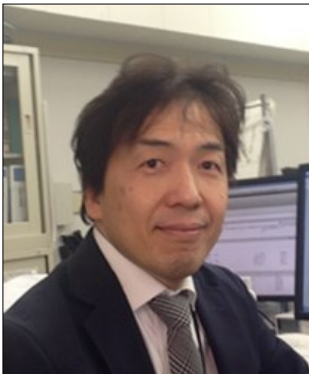
バイオ × デジタルの融合技術による化石資源に頼らない炭素循環社会の実現が国家戦略の一つとして挙げられ、高度に機能がデザインされたスマートセルによるバイオ燃料や化学品の生産技術が急速に進展しています。本講演では、このスマートセル技術とRITE Bioprocessによるバイオリファイナリー製品の生産技術開発について紹介します。

<備考>

スマートセル：高度に機能がデザインされ、機能の発現が制御された生物細胞。

スマートセルインダストリー：スマートセルを用いた産業群。

※経済産業省 産業構造審議会 商務流通情報分科会 バイオ委員会 中間報告書案(2016年6月)抜粋



山田 竜彦 氏((国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 新素材研究拠点長
研究コンソーシアム：SIPリグニン 研究代表
併任：筑波大学 生命環境系 教授(連携大学院))

タイトル：「未開の国産資源『リグニン』で創る新産業」

【概要】

「リグニン」という木材主成分の材料利用に特化した大型研究コンソーシアム「SIPリグニン」を設立し、国産リグニン資源をマテリアル利用するニュービジネスの創出を試みています。今回は、SIPリグニンにおける取り組みと、それによる地域創生の可能性について紹介します。



堀 哲也 氏(日本乳化剤株式会社 企画開発部 担当部長)

タイトル：「最近のイオン液体開発動向と市場性」

【概要】

イオン液体は、カチオン／アニオンで構成される液状の“塩”で、その組み合わせから特異的な機能を発現する機能材料として注目されております。

弊社では、独自の合成技術よりイオン液体の開発を進めており、今回のご説明では、弊社イオン液体とバイオリファイナリーに有望なイオン液体をご紹介します。